荘内中学校型学校教育の概要

VUCA時代が進展する中、学校教育における未来社会で強く生きていくための学力・人間力の育成のための取組も変わり続けなければなりません。今年の学校と来年の学校は違う、そのぐらい社会変化に合わせて学校はスピード感をもって変わり続けなければ、令和の時代についていけないようになるでしょう。激変していく社会で生きていく生徒のために、知恵を絞って改革を続けましょう。

荘内まなびスタイル

- 先行学習課題：導入部で先行学習の定着度を確認
- 学習のめあてを共有
- 教員の教授（習得）
- 個人思考場面の設定（個人の責任の明確化）：他の人に任せたら済むような場面をつくらない！（参加する責任）
  - ・全力で仲間を高める責任
  - ・仲間の援助に応える責任
- ペア・グループ活動等：思考の進化のための互恵的な関係による協働的な学び
- 思考ツールの積極的活用
- 自由進度学習による個別最適な学びの深化
- 協同学習 — 協同的活動場面の設定
  - ・学級全体での学び合い
  - ・ペア、グループ活動　EX：ジグソー法は効果的
  - ・説明・プレゼン発表等のアウトプット活動（全員できる工夫）
  - ※お互いに評価できる基準を提示
  - ★学習班は4人を原則
  - ★互恵的関係を構築
- 自由進度学習 — 自由進度学習場面の設定
  - ・学級全体で学びに向かう機運のもと、個人、ペア、グループ活動等を個人で選択
  - ※評価基準を明確化
  - ★先に進んで深化していく学習課題の提示
  - ★到達水準提示（水準レベル）
  - ★教員は学習困難生徒へ支援
- 学習の手引き提示：評価基準を確認しながら高い目標を設定
- 先行学習課題はスタディサプリ等のクラウド課題で提供振り返り提出や個人思考のクラウド課題化も推進
- 教科書の徹底活用が原則
- AIドリルの積極的活用、紙とクラウド課題のベストミックス
- 家庭学習時間（1日100分、土日含む）を想定して9教科の課題をイメージ
- まとめ・振り返り
  - ○自己分析による弱点整理
  - ○新しい課題発見
  - ○自己の考えの深化確認や成長確認

単元末テストに向けた学習の取組を指導＆適切な評価のフィードバックによる学習意欲の向上

- 学習の手引き作成：学習の流れ、評価基準を明確に伝える。
  - 単元の学習の流れをイメージ
  - 単元学習のゴールをイメージ
- 記録に残る評価
- 単元末テストの予告　計画的な学習を促進
- 協同学習場面や自由進度学習場面の設定による学習内容の深化
- 記録に残る評価
- 単元末テスト → 総括評価 → 再チャレンジ → 再評価
- 習得のための反復学習場面

2か月サイクル学習を意識した学習支援

- 教員の学力診断テスト分析による集団の弱点把握
- 授業の中で既習内容の再確認場面を設定
- 週課題の工夫
- テスト週間の取組
- 学習に向かう力の育成

単元の学習を進めるだけでなく、2か月サイクル学習を意識した既習内容の再チャレンジ（週課題を活用）も意図的に実施（得点力アップには重要）

課題の提示や学習イメージの提示、指示・連絡等はChromebookで実施、提出物等もできるだけクラウド活用

●AIを活用しながら自分の学びを主体的に進めていく力を育成する学習活動を検討

学校DXのその先へ

- Googleサイト：教職員ポータルサイト／各クラスポータルサイト
- 各教職員組織ごとに作成／各学年・各学級ごとに作成／各委員会、実行委員会、学プロ組織、部活動等ごとに作成
- Google ClassRoom
  - ●重要な情報伝達事項を掲示
  - ●各教科の授業内容や家庭学習課題を提示
- Google Chat
  - ●日々の情報伝達＆オンライン上の協議
  - ●随時データ共有
  - ●会議代わりに活用
- Google Gメール
- 自由使い：Google アプリ／Google Gemini／Canva
  - ●文書作成
  - ●プレゼン作成
  - ●表計算作成
  - ●ポスター、動画等の作成
  - ●データ共同編集
  - ●思考整理　ETC







主体性育成教育

荘内中生徒会の自治を行ない、社会人として必要な力を身につける。

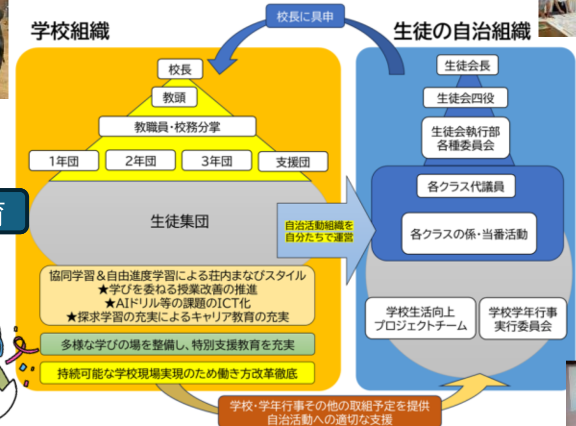


- 生徒会四役／生徒会執行部：荘内中がより発展し、生徒会員が成長していくよう、取組を考えます。予算も管理していきます。
- 生徒会各委員会：各委員会の目的を考えて、様々な取組を考えて進めていきます。
- 連動：各委員会からの指示や取組を委員は教室で各係に指示伝達／各クラスの係で用具に徹底
- 各クラス係活動／当番活動：各クラスが円滑に運営されるよう取り組みます。各委員会からの指示を受け活動します。
- 行政的な動き
- ボランティア活動
  - 学校行事・学年行事　各種実行委員会
  - 学校生活向上プロジェクトチーム「学プロ」隙間の取組！
- 自治会・NPO

学校内の組織の目的と構成を意識し、生徒会会員として行動する！



学校組織／生徒の自治組織



- ◆生徒会員は校長に具申書提出可能　改善したい事、やりたいことを実現できる意識
- ◆代議員は毎月の生徒会定例会で各クラスの声を執行部に提出（行政的な動きを尊重）
- ◆生徒会長等執行部は全校の意見を取り入れながら委員会等の取組を検討
- ◆学校・学年行事ごとに生徒の実行委員会を募集　企画運営を委ねる（教員がレールを敷かず、生徒が企画運営）
- ◆学校生活向上プロジェクトチーム「学プロ」は、様々な学習面や学校生活面、その他ボランティア活動について、柔軟に発想し校長に具申して活動していく。



予算委員会

生徒会活動や学プロ活動等を委ね、「自分たちの学校を自分たちで創る機運を醸成する。生徒会予算120万も生徒の**予算委員会で運用**

- ●ICTを活用して会議を最小限にして取組を進め、効率化を図る。
- ●Chromebookの自由使いで**「自走」**させることを重視
- ●教員は**伴走者**として支援
- ●自分たちでルールを作る「ルールメイキング」を推進



荘内中学校型令和の学校教育





教職員の意識改革と働き方改革

社会変化を知り、バイアスを捨て学校教育をパラダイムシフトする時代を共通理解
- ●校務や指導のICT化を徹底し、効率化を推進する。
- ●意思決定の中心を主任者会（1H／1W）に集中（あとはICTで）、小回り重視
- ●深く考えず「とにかくやってみて考えよう」を合言葉に。（正解のない時代）
- ●全教職員の合意を求めない。（全員一致は求めず進む。）
- ●学年学級経営や総合の取組、可能な限りパッケージ化して質を向上（担任ローテーション）



SHONAIみらい学3年間の実施コンテンツ

月	1年生	2年生	3年生
4月	オリエンテーション SDGs探究トレーニング学習 SDGs学習を活用して、今後必要になるスキル習得学習を進めていく。 ※小学校で学習しているという前提 ●プレゼン集会トレーニング実施	キャリア探究学習 「未来の生き方を考える①」 未来社会で生きていくうえで必要な資質能力を、経済格差、変わっていく職業、入試改革、必要とされる人材等の観点で深く考え、自分改革を進めていく。（単なる高校調べは×） ●プレゼン集会	平和探究学習「平和な未来」 世界情勢を理解しながら平和な社会を持続させるために提案を。 ●プレゼン集会　●SNS発信
5月			総合探究学習 「持続可能な未来」 これまで学習したSDGsを総合的にとらえ、地球的視野で持続可能な未来を創造するために必要な提案を行う。また、そのために地域からできることを発想し、訴えかける。 ●中間発表会（ポスターセッション） ●最終発表会（プレゼン集会）
6月			
7月	地域探究学習「故郷の未来」 地方創生の動きを理解し、日本社会全体が抱える問題をベースに玉野市の今後を考え、SDGsの観点で解決策を探る。 ※このコンテンツでも様々なスキル習得の場面を取り入れながら学習を進める。 ●中間発表会（ポスターセッション） ●最終発表会（プレゼン集会）	福祉探究学習 「ウエルビーイングな未来②」 日本社会を福祉の観点から見つめ、課題を整理して、すべての人がウエルビーイングな生き方ができる社会の実現に向けて提案を考え、SNS等で発信していく。 ●プレゼン集会＆ポスターセッション ●SNS発信	
8月			
9月			起業家学習・金融教育 「未来の生き方を考える③」
10月	荘内中プレゼンサミット開催（校内GP決定）　ENAGEEDプレゼンサミット応募		金融教育を続けながら、起業家学習を実施し、未来にできそうな会社等を自分でシュミレートしていくことで自分の生き方を考えていく。 ●起業シュミレート・レポート作成 ●プレゼン集会
11月	人権探究学習 「ウエルビーイングな未来①」 すべての人がウエルビーイングな生き方ができる社会を目指して、自分たちに何ができるか、現在の世界の課題を踏まえて考えていく。 ●プレゼンORポスターセッション集会	金融教育 「未来の生き方を考える②」 未来社会で生きていくうえで必要なお金について考えていく。18歳成人制や生き方が変わる事にもふれライフビジョンを探究する。 ●レポート作成	
12月			自由探究学習「未来へ」 テーマ設定を自由にして自分が探究したいテーマで取り組み、後輩たちに伝える。
1月	減災・復興探究学習 「地震大国日本の未来」	平和探究学習「平和な未来」	
2月	荘内中バトンタッチサミット開催		
3月	地震列島に住む私たちは、やがて来る地震に備えて何をなすべきかを考える。	世界情勢を理解しながら平和な社会を持続させるために必要なことを考えていく。	【plusα】減災・復興探究学習 「地震大国日本の未来」 ●地域参加型プレゼン集会





- ●あらゆる業務改善を実施
- ●勤務時間内で部活動も終了（～16:50）
- ●週2日5時間授業（余剰時間0）
- ●会議の徹底削減

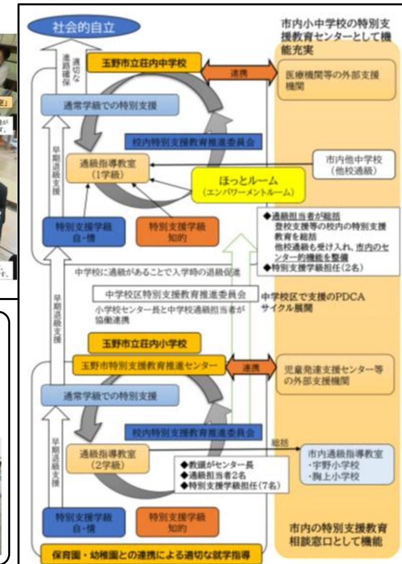
every.FRIDAY特集「学校を生徒にあげます！荘内中学校の挑戦」2025/06/20放送へのリンクです。

生徒指導支援体制



- ●こみゅトレ、ねっトレ、まなトレの時間でコンピテンシー育成
- ●PBIS（ほめて育てる生徒指導、考えさせる生徒指導を推進
- ●支援が必要な生徒の教育的ニーズに応じて多様な学びの場を整備
- ●小中一貫教育の中で系統的継続的支援を展開





中学校区一貫教育・学校運営協議会

荘内中学校の教育を支える体制
- ●中学校区一貫教育校園体制で中学校区の幼稚園、保育園、小・中学校が連携　6つの連携部会での協議や小中合同集会の実施、中学校生活スタートプログラムの実施
- ●学校運営協議会設置でコミュニティスクール化

